

# 水稻「ヒノヒカリ」を作りこなすための7つのポイント

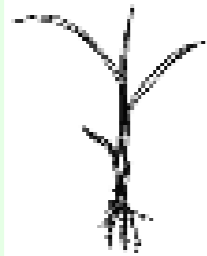
1. 平坦から中間部（標高300m以下）に適應する良食味品種。 10月上中旬に成熟する中生。
2. いもち病にはやや弱い。 気象条件によって、発生するので、種子消毒と病害虫防除を徹底する。

## 1. 健苗育成 浸種を十分に！

種籾の準備：3kg / 10a  
 塩水選と種子消毒の実施  
 (比重：1.13、水20ℓに食塩4.1kg)  
 浸種... 出芽しにくいため、十分な浸種と催芽で、均一なハト胸状態に。

播種...時期：5月上旬  
 量(ばらまき)：乾籾で100g / 箱  
 浸種籾で120g / 箱

育苗の目標(中苗)  
 育苗日数30日  
 草丈15~20cm  
 葉数3.5~4.0枚  
 (不完全葉除く)



温度管理・水管理  
 育苗期間中は、苗を軟弱徒長させないため、昼間は25以上にしなない。

出芽期	30~32
緑化期	昼20~25、夜15~18
硬化期	昼15~22、夜10~15

月	5			6			7			8			9			10		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育段階・主な作業	播種期	出芽期		田植期	活着期		分けつ期	最高分けつ期		幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	穂乳ぞろい期					成熟期
水管理	深						中干し						間断かん水					落水
	浅																	

## 2. 田植え 太植えは禁止！

田植時期 6月10日頃  
 栽植密度  
 条間30cm、株間18cm(18.5株 / m<sup>2</sup>)  
 植付本数は3~4本 / 株  
 太植えにすると茎が細くなり、倒伏しやすくなるほか、過繁茂となり、いもち病・紋枯病の発生を助長するため。  
 雑草防除(地域の慣行により実施)  
 散布後7日間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しをしないこと。

## 3. 水管理 登熟向上のために！

中干しは必要な茎数を確保した後に、軽くひび割れするくらいまでで7日程度実施する(7/中~下)。根の健全化と倒伏防止のため。出穂後30日間は間断かん水。圃場が乾き過ぎると登熟歩合が悪くなり、玄米品質が低下するため。

## 4. 施肥 倒伏しやすく、いもち病にも弱いので、施肥量は控えめに！

< 幼穂の確認方法 >

施肥量(10a当たり成分量、単位：kg)

地帯	平坦及び中間部		
	窒素	燐酸	加里
元肥	5	8	7
穂肥	3~4	-	3~4
合計	8~9	8	10~11



穂肥の施用

< 出穂期の20日前(幼穂形成期)：主稈の幼穂長が2~3mmに達したとき。 >

・ 出穂期の20日前の1回：緩効性肥料を窒素成分で3~4kg / 10a

平年は8月4日頃

(注) 元肥に緩効性一発肥料を使用する場合

元肥に窒素成分で8~9kg / 10a (穂肥を施用しないこと)

実肥は、絶対に施用しない。

玄米の蛋白含量が増加し、食味が低下するため。

## 5. 病害虫防除 いもち病防除を徹底しよう！

(太字は基幹防除)

### 田植期

箱施用剤を施用

いもち病・イネミズゾウムシの防除

移植後2~3週間

ジャンボタニシ(スクミリングガイ)の防除

・ 被害が発生する場合は、登録薬剤を散布

・ 卵塊がピンク色であれば、水中に払い落とす

・ 浅水管理で被害発生を抑制

・ 2月に2回以上耕耘すると越冬密度が低下

### 7月下旬~8月上旬

(最高分けつ期~幼穂形成期)

紋枯病、イチモンジセセリ(イネツトムシ)、

ウンカ類の防除。いもち病の防除

### 8月中旬(穂ばらみ期)

いもち病(穂いもち)防除。

9月上中旬(乳熟期)

斑点米カメムシ類・ウンカ類の被害が予想される場合は、登録薬剤で防除

## 6. 収穫 適期刈取で良質米作り！

刈取適期

出穂期の約45日後(全体の籾の9割程度が黄色く変わった頃)。

平年は10月4日頃。

刈遅れると、倒伏しやすく、穂発芽粒・胴割粒・茶米が増加し、玄米品質が悪くなるため、適期刈取に努めること。

乾燥

・ 乾燥目標水分は14.5%。

・ 刈り取った籾の水分が高いときは、最初は低めの温度で予備乾燥。

調製

・ 高品質の米に仕上げるため、ライスグレーダー(網目1.8mm)で選別し、屑米を除くこと。

## 7. 土づくり 米作りの基本！

稲わらの還元

年内に石灰窒素20kg / 10aと一緒にすき込む。稲わらの分解が遅れた場合、田植え後気温が上昇してくると急激に分解が進み、根傷みなどの生育障害が発生する。

15cm以上の深耕

作土が浅いと、枯れ上がりや倒伏が多くなって収量・品質とも悪くなるので、トラクターの速度とロータリーの回転数を遅くして、深耕する。

土壤改良資材の施用

肥料で補うことのできない養分を補給するため、稲わらをすき込む前に土壤改良資材を施用してから耕うんする。

(生育の目安)

播種期	田植期	最高分けつ期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	m <sup>2</sup> 穂数	精玄米重	千粒重	1穂籾数	登熟歩合
5月上旬	6月9日	7月下旬	8/23~8/25	10/1~10/8	81~86cm	19~21cm	330~360本	560~610kg/10a	22.7~23.2g	85~95個	80~84%

注) 1. 稈長、穂長及び収量構成要素：

水稻奨励品種決定調査(平成10~14年)  
 試験場所：檀原市四条町

栽植密度：17.9株 / m<sup>2</sup>(条間31cm・株間18cm)

2. 出穂期・成熟期：平成17~21年のデータ